

『学校だより』令和5年度10月号

Escuela Japonesa de Panamá

パナマ日本人学校

TEL: 223-7782 FAX: 264-4751

E-mail:japonesa@panama.lolipop.jp

<http://panama.lolipop.jp/>



在籍数

小学部 11名

中学部 2名

合計 13名

## 自分づくりのスタート地点

校長 宗像 玲

2学期がスタートしてから急ピッチで取り組んできた学習発表会が、無事に終了しました。今年度も各学級での取組、英語劇やスペイン語劇、さらには全員での音楽の発表と盛りだくさんの内容をやりきった子どもたちに大きな拍手を送りたいと思います。そして、練習期間中、子どもたちの頑張りを家庭で応援していただいた保護者の皆様には感謝申し上げます。

今年日本人学校の学習発表会を初めて見ていただいた方もおられました。その中にスペイン語のカルメン先生や英語のステファニー先生も含まれます。そのお二人に感想を聞いてみると、「日本式」のこのような発表会のスタイルと、全員が協力して一つの物を作り上げる取組が素晴らしいと高く評価していただきました。学習の内容や出来映えがどうだったかということ以外に、取組の経験の中で学びを積み重ねていく日本の学校行事の意義も、世界に誇れる「日本の文化」の1つなのかもしれません。

オープニングで話しましたが、パナマ日本人学校の第1回学習発表会が行われたのは、私が熊本県の山間部の町の中学校に通っている頃です。その頃の私が何を考えていたか思い出せませんが、少なくともその後の自分の生き方を考えるときに、「世界」が視野に入っていなかったのは間違いありません。中学を卒業したら、少し離れた市にある高校に車で通い、高校を卒業して就職するにしても、大学に行くにしても生まれ故郷の盆地を出て、熊本市か福岡市か、あるいは大阪や東京に出て一人暮らしをすることになる、そんな田舎者の宿命にさえまだ気づいていなかったかもしれません。まさか、自分の同年代の子どもが、日本から遠く離れたパナマで、英語やスペイン語を学んでいようとは知る由もありませんでした。その頃パナマで学んでいた中学生たちが、その後どんな人生を切り拓いていったのかわかりませんが、田舎者から見ると自分づくりのスタート地点が違いすぎているようで不公平な気がします。(笑)

現在、世界中の日本人学校で学ぶ子どもたちには、日本人としてのアイデンティティを身に付けた上で、グローバルな人材として成長することが期待されています。「親の仕事の都合によりパナマ日本人学校で学ぶことになった」ことで、パナマという国を知り、パナマから「世界の中にある日本」を学んでいるこの子どもたちは、そのアドバンテージを生かし、これからどんな人生を切り拓いて行くのだろうか、子どもたちの発表を見ながら私はそんなことを考えていました。



# 10・11月の主な行事



## 修学旅行（ ）

本校では6年ぶりの修学旅行になります。パナマでの思い出をたくさん作ってほしいと思います。

なお、小学部1～4年は1日目カレー作り、2日目校外学習（お弁当も校外で食べます。）を計画しています。詳しくは後日連絡させていただきます。

スクールバスの運行予定も変わります。臨時運行予定表を配付しますのでご確認ください。



## 夏祭り PTAの皆様ありがとうございました。

子どもたちもパナマでは味わえない日本のお祭りの雰囲気を楽しめました。



## 愛情給食

コロナ禍以降実施できなかった愛情給食が復活しました。子どもたちも大変楽しみにしていたようです。PTAの皆様ありがとうございました。



## エписコパル校交流

2学期はエписコパル校との交流を実施します。9月28日には、ご多用の中ご参観いただきありがとうございました。10月には訪問しての交流会とインターナショナルデーの見学を予定しています。

